



経産省の不誠実な対応 環境アセスでも

この裁判では、被告側の不誠実な対応がなされ、度々原告側から指摘をしてきました。しかし、経済産業省の不誠実な対応は、裁判ではじまったことではなく、環境アセスの段階から同様のことが起きていたことが明らかになりました。

去る二〇二二年十二月十日の第9回期日では、環境省の大臣意見にあたって行われた環境省と経済産業省事前協議の情報開示請求を取り上げています。開示された文章から、当時環境省が重要な指摘をしていたにもかかわらず、経済産業省からは極めて不誠実な回答があったことが明らかになり、さらにこのやりとりの後、環境大臣意見が修正されていたこともわかりました。

配慮書段階で、経済産業省は事業者に必要な対応を促さず、環境省の質問に対して「発電事業者に対する過度な要求事項である」とか、目標達成の見通しに対しては「今般審査内容に何ら関係ない」、「事業者の権利を阻害する」、「ネガティブな印象を持たせ得る」などと、事業とアセスへの悪影響を回避するための対応に終始しています。環境影響審査よりも企業保護を優先し、経済産業省の審査がいかに偏ったものかがわかります。

弁護団からは、経産省がもし真摯に対応していれば、アセス手続が重大な瑕疵をおびることはなかったと結論づけています。弁論終了後、傍聴をしていた市民からも経産省の対応に改めて憤りの声が聞こえてきました。

次の裁判も注目！！

両日とも原告尋問が行われます。鈴木陸郎さん、橋本かおるさん、武本匡弘さん、小松原哲也さんが出席予定です。

第10回期日&報告会

日程:2022年2月21日(月) 13:30~
場所:東京地方裁判所103号法廷
〈終了後報告会〉 予定時刻:16:00
場所:衆議院第一議員会館多目的ホール
* 当日ZOOM中継および後日WEBに掲載予定

第11回期日&報告会

日程:2021年3月7日(月)10:30~
場所:東京地方裁判所103号法廷
〈終了後報告会〉 予定時刻:12:00
場所:日比谷図書文化館大ホール
* 当日ZOOM中継および後日WEBに掲載予定

ZOOM視聴をご希望の方はご登録を！

第10回報告会 2/21 16:00
ZOOM視聴登録URL
<http://bit.ly/3JF99s5>



第11回報告会 3/7 12:00
ZOOM視聴登録URL
<http://bit.ly/33EwE5i>



目次

次の裁判予定	1
第9回期日報告	2
レポート:	
日本の石炭新発電技術.....	3
映画上映会:	
グレタひとりぼっちの挑戦....	4
横須賀気候マーチ.....	4



第九回期日報告：情報開示で明らかになった環境省の指摘 経済産業省の不誠実な対応と歪められた大臣意見

本誌巻頭でもご紹介したとおり、環境アセスメントで環境大臣が意見書を作成するにあたって、経産省と環境省の事前協議について情報開示請求を行い、その内容は裁判にも提出しています。裁判で原告が指摘していたのと同じような重要な論点を環境省側からも指摘されており、それに対する経産省の回答は、非常に不誠実なものです。その内容を以下に抜粋します。

環境省と経済産業省の配慮書段階での事前協議内容(抜粋)

①発電燃料に関する複数案検討について

環境省：周辺環境及び地球環境への負荷軽減の観点から、LNG等の燃料の複数案が考えられるが、最終的に石炭を選定した理由及びその検討経過について、ご教示願いたい

経済産業省：事業者からの回答として、LNGを燃料とする場合には受入施設 あるいはガス導管を設置・敷設する必要がある、などの説明をおこなっただけで、環境面での影響という観点での検討経過についての説明は全くなかった。

②配慮書段階で温室効果ガス等の欠落

環境省：計画段階配慮事項として選定していない温室効果ガス等(施設の稼働)について、改めて、計画段階配慮事項として選定の有無を検討し、…重大な環境影響が無いと判断するに至った検討経過をご教示願いたい。また、計画段階配慮事項として選定すべきと考えるが、貴見を伺いたい。

経済産業省：事業者の回答として、利用可能な最良の発電技術を使用している、などの理由をあげ、「重大な影響を回避・低減することが可能と考えられる」と簡単に説明しただけで、検討経過についての説明などはなかった。

③「排出係数0.37kg-CO₂/kWh」目標達成の確保

環境省：具体的な販売先選択の考え方について御教示願いたい。その際、販売先の電源比率について考慮されているか御教示願いたい。

経済産業省：事業者の回答として、「自主的枠組みに参加する小売電気事業者に販売するよう努めます」とだけ回答。

環境省(再質問)：発電する電力の販売先について未定である本事業は、国の二酸化炭素排出削減目標・計画との整合性を判断できないため、現状のまま以降の環境影響評価手続を進めることはできない

経済産業省：発電事業者に対する過度な要求事項と考えます

④リプレースによる環境影響の悪化

二酸化炭素の排出(直近5年間との比較) 大気汚染(旧発電所の直近3年間との比較) 海洋汚染(化学的酸素要求量等)(直近10年間との比較)について

環境省：「現状」とは何を指すのかを明らかにし、アセスメントに記載するよう要求。

経済産業省：「発電所のライフサイクルを考慮すると、リプレースを計画する発電所において稼働率が低下するのは当然であり、リプレースガイドラインの適用条件が至近の稼働率を示すのであれば、本件を含め、これを適用する案件はない」

⑤省エネ法ベンチマーク指標の達成見通し欠如

【当初の環境大臣意見案】「2014年度時点において省エネ法に基づくベンチマーク指標の値が目指すべき水準を下回っており…」 「目標達成に向けた具体的な方策や行程は十分に示されていない」

経済産業省：「省エネ法は環境省の管轄外」、「今般審査内容に何ら関係ない」、「事業者の権利を阻害する」、「ネガティブな印象を持たせ得る」

環境省(反論)「QAにより事実関係を確認し、事業の特性に応じた適正な環境大臣意見を述べることは、環境影響評価法に基づく審査の基本であり、これを否定されることは承服できない」

【修正された環境大臣意見】「目指すべき水準の達成状況は不明である」

⑥リプレースによる環境影響悪化の指摘

【当初の環境大臣意見案】「本事業において新設する発電設備の稼働に伴う環境影響は、長期計画停止中の近年の環境負荷よりも増大する計画であることを踏まえ…」

経済産業省：「新設する発電設備が既設のものよりも環境に悪いという誤解を与えかねない」

環境省(反論)：「稼働実績がない既設設備があることから、一時的な停止とは言い難い」

【修正された環境大臣意見】「公害防止協定で規定している既設設備からの汚染物質排出量等よりは環境負荷が減少するものの」という文言を追加



【レポート】日本の新石炭火力技術 “アンモニア火力は無駄な投資だ”

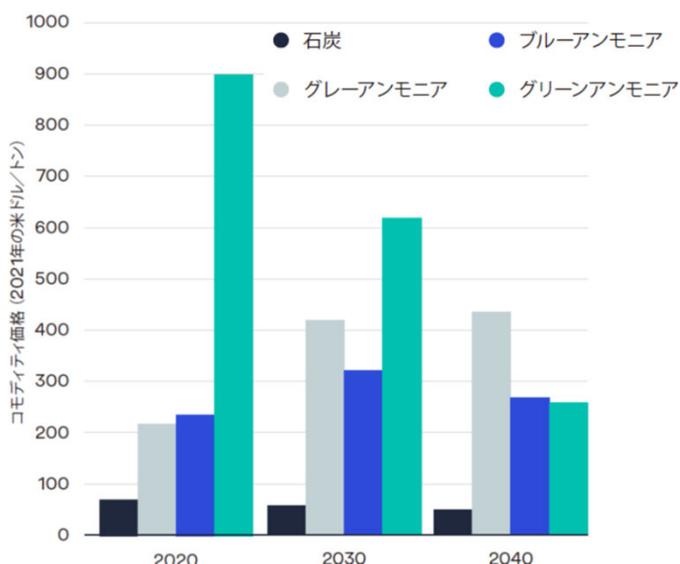
今年2月、環境団体のTransitionZeroが、報告書「日本の石炭新発電技術」を発表しました。本報告書は、アンモニア混焼、石炭ガス化 (IGCC) および二酸化炭素回収・貯留 (CCS) といった技術について、環境面、コスト面などから分析したものです。横須賀火力を建設中のJERAは将来的にゼロエミッションを目指すとしながら、その手法としてアンモニア専焼をうたっていますが、その妥当性を検証する内容と言え、アンモニアへの投資は無駄だと結論づけています。ここでは、アンモニアの価格やCO2削減効果についての検証結果を紹介しましょう。

アンモニアの価格予測→CO2ゼロのグリーンアンモニアはコストが15倍

アンモニアは、その製造方法から色で区別されています。大きくは、アンモニアの原料となる水素が化石燃料起源で製造段階でCO2が大気中に放出されているものをグレーアンモニア、製造段階で生成されたCO2を回収貯留などしたものをブルーアンモニア、原料の水素を水から再エネを使って生成したものをグリーンアンモニアと分類されています。

これらの種別コスト分析において、アンモニアの最も安価な原料であるグレーアンモニアのコストは、現在、エネルギー当量ベースで燃料炭の約4倍であり、グリーンアンモニアにおいては、さらにエネルギー当量ベースで石炭の15倍とコスト差はさらに拡大するとしています。また、炭素価格が全世界でIEAのNZEに基づき制度化されると仮定すると、2030年までにグレーアンモニアのコストは大幅に上昇し、ブルーアンモニアやグリーンアンモニアなどの低炭素オプションの競争力が増すとも報告しています。

グラフ1: アンモニアの価格予測値



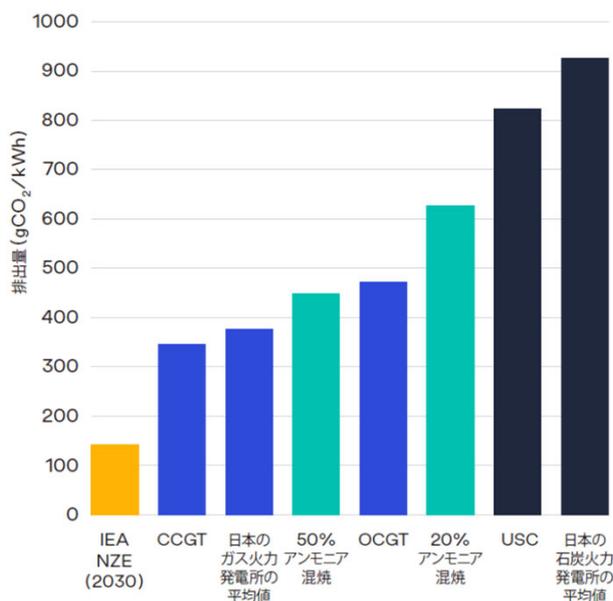
混焼技術では排出削減に効果なし

報告書では、アンモニア混焼による排出削減効果はほとんどないことが報告されています。グラフ2で示されたように、現時点で技術的に実施可能な混焼率20%では、排出係数はガス燃焼複合サイクル発電所 (CCGT) の倍に近い値にとどまります。また、50%混焼では、排出係数がガス火力に近づく程度です。IEAのNZE (黄色部分) に合わせるには、ガス火力を含めて対応が必要になるので、アンモニア混焼では削減効果が得られているとは言えません。

この他にも、アンモニア混焼の課題として、技術的課題、大気汚染、エネルギー安全保障の問題などが指摘されており、CO2抑制どころか、安価で安定的な電源確保という観点からも、人の健康への影響という点からも問題だらけであることが改めて浮き彫りにされました。

「ゼロエミッションを目指す」などと言って、石炭火力を着々と進めるJERAのアクションは、グリーンウォッシュに他ならないのです。

グラフ2: さまざまな発電技術における排出強度



出典: TransitionZero



【映画上映会】映画「グレタひとりぼっちの挑戦」横須賀で開催

来る4月10日、ヨコスカ・ベイサイドポケットにて、映画「グレタひとりぼっちの挑戦」上映会を行います。当日はCOP26に参加した若者や横須賀市内で環境問題に携わる方のスピーチも予定しています。世界各地で発生している気候変動による影響と被害などを、気候変動の大きな原因である石炭火力発電建設が進む横須賀、三浦地域の方たちと共有するために映画「グレタひとりぼっちの挑戦」上映実行委員会を立ち上げ主催するものです。ぜひご参加ください。

【概要】

上映映画:「グレタひとりぼっちの挑戦」
 上映日程:2022年4月10日(日)上映:①10:30~ ②14:30~ ③18:30~
 定員:各回300人見込
 上映場所:ヨコスカ・ベイサイドポケット
 チケット:前売り券 大人1000円 小・中・高校生500円
 当日券 大人1200円 小・中・高校生700円
 *未就学児、障がい者とその介助者は無料
 *前売り券購入希望の方は 横須賀芸術劇場046-823-9999
 実行委員会チケット担当:相良090-1691-7334、竹淵090-8859-6383
 主催:映画「グレタひとりぼっちの挑戦」よこすか上映実行委員会
 後援:横須賀市教育委員会、三浦市、三浦市教育委員会



【活動】4. 24横須賀気候マーチに参加しよう

来る4月24日(日)、横須賀で気候マーチ「石炭火力を止めるのはいま! 横須賀気候マーチ」の開催が決定しました。午後1時半にヴェルニー公園(汐入駅)で集会を行い、2時からマーチを行います。予定としてはヴェルニー公園から市役所前公園までの道のりをゆっくりと行進します。今後、予定が変わることもありますので、WEBサイトで確認してください。
 皆様のご参加をお待ちしています!



*この写真はニューヨークの気候マーチの写真です

編集後記

横須賀とほぼ平行して進んでいた神戸の石炭火力発電所は建設工事を終え、今月から3号機が商業運転を開始してしまいました。1月に公開された容量市場の結果から、応札対象電源となっていることも明らかになっています。
 横須賀火力の建設をしているJERAも同様に容量市場では大量の電源を応札していることが明らかになっています。
 今後大量のCO2を排出しながら、「脱炭素社会を目指す」「将来、アンモニア火力でやる」と言い続けるのでしょうか。私たち市民は、こうした大企業のグリーンウォッシュを厳しく監視し、問題を発信し続けることが必要だと思います。(ももい)